
家庭教師ヒットマンREBORN! 星と雪と月の守護者

TH

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家庭教師ヒットマンREBORN！ 星と雪と月の守護者

【Nコード】

N9565X

【作者名】

TH

【あらすじ】

継承式編からすぎて虹の呪い編の前の話です。

オリジナルキャラクター紹介（前書き）

リボーンオリジナルストーリーです。小説の初心者なのでできればアドバイスをください。

オリジナルキャラクター紹介

設定 継承式終了後。

敵ファミリー

ゴッドファミリー

ボンゴレ壊滅を目論んでいるマフィア。ファミリー達にはそれぞれ『オリュンポスの12使徒』の名前をコードネームをしている。

登場人物

バスクード・イゴール

所属 ボンゴレ門外顧問

階級 ボンゴレ星の守護者

使用リング 星のボンゴレリング

使用匣 星ライオン

使用武器 ショットガン

ボンゴレ星の守護者で門外顧問に所属している少年。年齢は14才。誕生日4月12日。血液型O型。門外顧問に所属しているため家光やバジル達とは顔見知りしている。明るく前向きな性格である。イメルダ、ゼキラとは幼少のころからの知り合いで、3人のリーダー的存在である。初めて会ったクロームに一目惚れする。

ゼキラ・ロレンツイニ

所属 ボンゴレ門外顧問

階級 ボンゴレ雪の守護者

使用匣 雪白熊

使用リング 雪のボンゴレリング

使用武器 剣

ボンゴレ雪の守護者で匣兵器の発明者・『ジエペット・ロレンツイニ』の曾孫。ポーカーフェイスで雪みたいに冷たい眼をしている。幼少の頃、両親が殺し屋に目の前で殺された過去があり、それ以降、殺し屋を憎んでいる。ボンゴレに拾われ、その頃からバスクード達

と親しくなる。最初はツナ達を見下していたが徐々にツナ達を認め始める。うるさいのが嫌いなため、了平の声や獄寺とハルのケンカなどを聞くとすぐさま剣を出して脅して黙らせる。殺し屋と戦う時には必ず非情になる。しかしバスクード達にはその裏腹に優しい一面もある。バスクード達と仲が良いと言う事を否定をしないなどバスクード達に絶対的な信頼をしている。

イメルダ・フェンリール

所属 ボンゴレ門外顧問

階級 ボンゴレ月の守護者

使用リング 月のボンゴレリング

使用匣 月ウサギ

使用武器 剣

ボンゴレ月の守護者。前向きで明るい性格の少女。かなりオシャレ好きで、戦う前でもオシャレしたりする。日本に興味があり、3人の中で一番日本を行きたがっていた。『真の美しさ』をこだわっている。ボンゴレに手を出した者にはきつい態度になる。初めて会った雲雀に一目惚れする。好きな言葉は「美」。

小雪

所属 ボンゴレ門外顧問

階級 ボンゴレ雪、星、月の守護者補佐

使用リング 大空系リング

使用匣 大空コンドル

使用武器 ブーメラン

ボンゴレ雪、星、月の守護者補佐を務める少女。2年前に殺し屋に追われていた所をゼキラ達に助けられた。それ以来、バスクード、イメルダには兄弟的存在として見ている。ゼキラには異性に意識している。

オリジナルキャラクター紹介（後書き）

だいたいこんな感じです。感想お待ちしています。

標的1 転校生

標的1 転校生

ツナ「え？転校生が来るの？」

山本「ああ。話によるとな、イタリアから留学しに来たんだってよ」

ツナ（イタリアか…？）
ツナ「イタリアか…？　そう言えば獄寺君もイタリアから来たんだよね……」

獄寺「もしその転校生が10代目に生意気な態度取ったら10代目の右腕・この獄寺隼人がぶっ飛ばしてやるぜ！10代目安心してください！」

ツナ「い、いいよ獄寺君！そんなことしなくて！（相変わらず怖いよこの人〜）」

山本「俺はむしろ楽しみだぜ？カオルみてえに野球好きな奴だったから入部大歓迎だぜ！」

獄寺「お前はいつもそればかりじゃねえかこの野球バカ！」

3人が会話していると先生が教室に入ってきた。

先生「ハイみんな席に着いて」

生徒達は先生の言うとおりに席に着いた。

先生「えー、今日からこのクラスに新しい生徒が入ることになった。それじゃあ2人とも入りなさい。」

教室に入ってきたのは一人はちゃんちゃそうな少年。もう一人はその真逆で物静かな少年だった。

先生「今日からこのクラスの生徒になる、『バスケット・イゴール』君と『ゼキラ・ロレンツイニ』君だ。みんな仲良くな」

バスケット「今日からこのクラスに入ることになった、バスケット・イゴールだ！よろしくな！」

ゼキラ「ゼキラ・ロレンツイニ。よろしく」

バスケットは明るくあいさつし、ゼキラは静かにあいさつした。

先生「えーとそれでは今空いている席に座ってください。」

バスカード「ウィーッス！」

ゼキラ「…ハイ」

2人は先生に返事をした後、バスカードはツナの隣、ゼキラは山本の隣に座った。するとバスカードは座った直後にツナに声掛けた
バスカード「よろしくな！沢田！」

ツナ「あつ、うんよろしくーアレ？なんで俺の名字知ってるの？」

バスカード「そりゃあ知ってるさ。お前ってボンゴレ10代目・沢田綱吉だろ？」

バスカードの言葉を聞いたツナは驚いた。なぜなら今日来た転校生が自分の事を知っているからだ。

ツナ「君ってもしかしてー」

バスカード「おお。俺、ボンゴレの一員だ。放課後、お前の仲間連れて屋上でゆっくり話そうぜ」

標的 1 転校生（後書き）

投稿遅れるかもしれませんがアドバイスと感想を下さい。

標的2 新しい守護者（前書き）

今日は少し長いです

標的2 新しい守護者

放課後。ツナは獄寺と山本、了平を呼び、屋上で集まっていた。

獄寺「10代目もしかしてその転校生、敵ファミリーのスパイじゃないんですか!？」

ツナ「わからない…でも悪い人には見えなかったし……」

山本「まさか転校生がマフィアごっこの新しい仲間なんてな!アハハ!」

獄寺「だからごっこじゃねえんだよ!バカ!」

了平「いいではないか!タコ頭!その転校生をわがボグシング部に入部させようではないか!」

獄寺「テメエはすぐそれかよ!いい加減ほどほどにしろよ芝生頭!」
了平「なんだとタコ頭!やるのか!？」

獄寺「上等だぜ!白黒つけてやるぜ!」

山本「まあまあ。落ち着けて」

ツナ「獄寺君落ち着いて!それにお兄さんも!」

バスクード「ハハハハ!ずいぶん賑やかだなお前ら!」

4人は上を見るとバスクードが屋上の入り口の上に立っていた。

ツナ「バスクード君!」

バスクード「バスクードでいいぜ。よつと」

バスクードは屋上の入り口の上からジャンプして下りた。

バスクード「それで、そいつらがお前の仲間かツナ?」

ツナ「あつ、うん」

獄寺「おいテメエ!10代目に馴れ馴れしく『ツナ』って呼ぶな!」

山本「まあいいじゃねえか獄寺。紹介するぜ。俺は—」

バスクード「山本武。ボンゴレ雨の守護者で完全無欠最強無敵の流派・『時雨創燕流』の9代目継承者。普段は野球をしていて、将来はプロ野球選手を目指している。剣技の才能も優れていて、現にヴ

アリアーのスクアーロ、10年後の世界では幻騎士を倒している。
そして実家は寿司屋。だろ？」

山本「お前すつげえな！超能力者か？」

バスクード「違えーよ。俺達の情報力さ。ま、10年後の事は『あの娘』から聞いたがな」

ツナ「あの娘って、ユニの事？」

バスクード「ああ。10年後の出来事は全部ユニから聞いている。白蘭の事とかさ。なあなあ、白蘭ってめっちゃ強かったんだろ？」

ツナ「う、うん」

バスクード「いいな、俺も白蘭と闘りたかったな」

？「無駄な戦いは止めるっていつも言ってるだろ？バスクード」

ツナ達は声が聞こえた場所へ振り向くと屋上の出入り口に転校生のゼキラがいた。そして後ろには2人の女子生徒がいた

バスクード「よ！ゼキラ、イメルダ、小雪！」

ツナ「え？もしかしてこの3人も？」

バスクード「ああ。俺の仲間の『イメルダ・フェンリール』と『小雪』だ。」

イメルダ「イメルダ・フェンリールよ。よろしくね、10代目」

小雪「小雪です。よろしくお願いします」

バスクード「そして、俺達はお前の守護者でもあるんだぜ？」

ツナ、獄寺、山本、了平「」「」「守護者？」「」

バスクード「あれ？お前からあいつに聞いてなねえのか？」

ツナ「あいつ？」

ゼキラは後ろに向き、誰もいない所に声掛けた。

ゼキラ「出て来いリボン。いるんだろ？」

ゼキラが声をかけた場所から忍者の格好して隠れ身の術をしていたリボンが現れた。

リボン「ちやおっス。久しぶりだな。お前ら」

バスクード「おう。久しぶりだな！つか、なんだその格好？」

ゼキラ「貴様…まだ生きてたのか…」

獄寺「テメエ！リボンさんに向かって！」

獄寺はダイナマイトを出すとダイナマイトの導火線が切れ、光る何かが獄寺の喉筋に付けた。ゼキラの右手には剣があった。

獄寺「なっ……！」

それを見たツナ達は驚いた。武器を出す仕草が全くしていなかったからだ。

ゼキラ「俺の前にうるさい音をだすな。もししたら、斬る。」

ゼキラの冷たい目と溢れ出てくる殺気にツナ達は動揺した。しかしバスクードは動揺せずいつもの態度でゼキラを止めた。

バスクード「ハイハイゼキラくん。落ち着きましようね。」

ゼキラはバスクードを睨んでいたが素直に聞いたのか剣をしまった。ゼキラ「バスクード。オレは先に帰る。殺し屋と一緒に居たら反吐が出る」

バスクード「おう、じゃあな」

ゼキラは屋上に出ていき、小雪もゼキラの後を追った。

イメルダ「ごめんね。あいつ殺し屋がもの凄く嫌いな。視界に入ると消したくなっちゃうんだよ」

ツナ「そうなんだ……それでさっきも言ってたけど、守護者って？」

リボン「こいつ等は、星、雪、月の守護者なんだ」

獄寺「星と月と雪ですか！？しかしリボンさん！ボンゴレリングは天空、嵐、雨、雷、晴、霧、雲だけだったはずじゃ……！」

リボン「ボンゴレ一世はかつて星、月、雪という3人の守護者がいたんだ。しかしあいつ等は一世の正義が気に入ってボンゴレに入ったからな。二世がボスになったら、すぐに辞めちまったんだ。」

バスクード「そう言うこと。俺達はそれまで9代目の守護者をしてたんだ。あの人、全然マフィアに見えないしね。」

イメルダ「ようするに私達はあんたみたいなやつ以外は従う気はないってね」

バスクード「ちなみに、星はオレ、月はイメルダ、雪はゼキラだ」

獄寺「あいつが……？」

山本「どうした獄寺？」

了平「不満でもあるのか？タコ頭」

獄寺「大アリだ！あいつ、さつきリボンさんに無礼な態度をしたんだぞ！あいつは信用出来ねえ！」

バスクード「まあまあ。あいつも内心はいい奴だから大丈夫だよ。

殺し屋とるさいやつが嫌いなだけだよ。」

獄寺「いいや！あいつは信用出来ねえ！」

イメルダ「随分疑い深いんだねアンタ。そんなんじゃ、彼女できないよ？」

獄寺「んだとテメー！！」

今からダイナマイトを出そうとした獄寺をバスクードが止めた。

バスクード「まあまあ。これから俺達ファミリーになるんだから仲良く行こうぜ？」

山本「そうだぜ。仲良くしようぜ？」

ツナ「そ、そうだよ獄寺君。」

ツナの仲裁を聞いた獄寺は「10代目がそう仰るのですしたら」と言いながらダイナマイトをしまった。

バスクード「じゃあ、俺達はもう帰るぜ。明日もし出来たら他の守護者と会わせてくれよ。じゃあな」

ツナ「うん。じゃあね」

山本「じゃあな！」

3人は屋上の出入り口にへと向かっている途中にイメルダは獄寺にベーと舌を出した。

獄寺「あのクソ女！」

ツナ「ちょ！獄寺君！落ち着いて！」

獄寺はイメルダの挑発に腹を立て、爆発した。ツナと山本、了平はなんとか落ち着かせようとした。そんな所を校舎に離れている屋上から見ている集団がいた

「あれがボンゴレ10代目・沢田綱吉か…」

「なーんだ。ただのガキじゃん」

「でも油断しない方が良^いぜ？現にあいつあのXANXASや白蘭、
D・スピードを倒したらしいぜ？」

「なかなか面白そうじゃないか。沢田綱吉…お前の命は俺^がいただ
く」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9565x/>

家庭教師ヒットマンREBORN! 星と雪と月の守護者

2011年10月27日17時07分発行